2016年度　特別養子縁組グミの会　研修報告書

2016年度は日本財団の助成金により2回の研修を開催することができた。

1．春の集い「真実告知のワークショップ」

　　開催日：2016年4月29日（金・祝）10時～11時30分

　　講師　：長田敦子氏

二葉保育園臨床心理士・東京都児童相談センター里親推進員

　　場所　：二葉保育園本部棟3階研修室

　　保育　：有り。子育て広場ふたば　保育士：(株)明日香

　　参加者：26人　（内：養親23人・支援者3人）

　　　　　　保育：12人（1才～10歳）

研修の目的

2015年9月9日に開催した「研修：真実告知」講師：矢満田篤二氏の研修を踏まえて、ワークショップを行った。

2015年の研修はグミの会として初めての研修だったこともあり、参加者から「もっと研修に参加したい」という声が多くあった。

子供に特別養子縁組であること、生い立ちを伝えることは大切なことで、必ずしなければならないことであると当会では考えている。

そのために、いかに子供に不安感を与えず、子供が事実を受け止めることができるかについて、座学を繰り返すよりも先輩養親や当事者の経験談や考えを聴く・知る・役立てることも大切であることから、2回目の研修はワークショップとした。

講師の長田敦子氏は二葉乳児院から里子・養子として巣立った子供たちとその家族の支援や、児童相談センターで養育家庭・特別養子縁組家庭の家庭訪問を含めた支援をしており、事例や支援について長けている。

またグミの会の活動が二葉保育園・子育て広場を利用していることから会員にとって信頼できる身近な存在であることから依頼をした。

研修結果

４つのグループに分かれ、その中に①高校生以上の子供の養親②支援者をそれぞれ配置し、グループ内に子供の年齢が重ならないように参加者を配置した。

前半は長田氏のパワーポイントを使用した講義を聴き、後半はグループワークを行い、最後に各グループからの報告を全員で共有した。

参加者からは「講師の話が分かりやすかった」「先輩養親の話を聞くことができたのがよかった」「一人で考えていたら不安だらけだったが、みんなの話を聞けて安心できるようになった」など研修前より研修後の方が子供への真実告知について前向きに考えられるようになったというのが参加者全員の共通した感想だった。

日頃は大グミ（子供が高校生以上の養親の会）にしか参加しない会員も「若い方のお役に立つのなら」と積極的に参加してくれたことも、養育経験の浅い会員にとっては安堵感に繋がるものだった。

午後からは助成金事業とは別にサロンを開催した。

午前中のワークショップで共有できるものができたこともあり、真実告知について先輩養親と話をする人や、養育について同世代の子育て中の人と話をする人など養親ならではの話題で盛況だった。

別紙にワークショップ中に参加者から出た声を纏めた。

この集計には、特別養子縁組当事者である養子や、特別養子縁組を支援する児童養護施設出身者の協力があった。

養子であることにデリケートな状況になりがちな高校生の養子たちが、家庭で安心して暮らす経験のない施設出身者と一緒に作業をすることで、社会的養護について改めて考える機会ができたようだった。

2．秋の集い「研修:子どもを迎えて～子供を育む愛着のきずな～」

　　開催日：2016年9月22日（木・祝）10時～11時50分

　　講師　：田尻由貴子氏

スタディライフ熊本特別顧問・元熊本慈恵病院看護部長

　　場所　：二葉保育園本部棟3階研修室

　　保育　：有り。子育て広場ふたば　保育士：(株)明日香

　　参加者：35人　（内：養親28人・支援者7人）

　　　　　　保育：18人（1才～10歳）

研修の目的

赤ちゃん縁組の会員の増加に伴い、「赤ちゃん縁組だから愛着障害はない」「赤ちゃん縁組だから実子と同じ」と考える会員がいることがわかった。

赤ちゃん縁組でも愛着障害の事例はあり、真実告知（出生・生い立ちの事実）がある以上、実子と同じにはならないということを研修講師から伝えてもらい、

会員相互の共通認識を増やすことで、より会員交流が深まるようにしたいと考え当会の3回目の研修を開催した。

また、行政の養子縁組研修は委託直後までということもあり、多くの会員が幼児期・学童期の子育て研修を受講していないという声が1回目・2回目の参加者アンケートに寄せられたこともあり、今回の研修テーマに至った。

研修結果

講師の田尻由貴子氏よりパワーポイントを使用した講義を聴いた。

研修初心者でも分かりやすい内容で、後半には参加者からの質問に対して講師が回答するという時間を多く設けた。

「参加者が今、一番子育てで悩んでいること」を中心に田尻氏に回答してもらうことで、すぐに実践できる子供への向き合い方を学ぶことができた。

午後からは助成金事業とは別にサロンを開催した。

午前中の研修で共有できるものができたこともあり、またサロンには講師の田尻由貴子氏、田尻氏を取材に来た新聞記者も加わり、2回目の研修（ワークショップ）の時以上に盛況だった。

2回の研修を終えて

参加者からのアンケートでは全員から「もっと研修に参加したい」や具体的に講師や研修テーマの記載があった。

研修の後にサロンを設けることで、会員同士の会話が弾み親近感がわく姿が見られた。

研修、とくに座学だけだと当事者同士でありながら、ほとんど会話もせず知り合ったのにも関わらず交流まで至らないことがあるが、研修とサロンを同日に開催することが特別養子縁組家庭の支援により繋がるということが分かった。

グミの会の活動に初参加だった参加者全員がグミの会の活動に理解を示し、入会をした。

これも研修とサロンでの交流結果だと考えられる。

特別養子縁組の子育ては一見実子と変わらないように思われがちだが、里子や施設で生活する子供と同じ社会的養護の立場にある子供の子育てである。

特別養子縁組の子育てをより安心・より安全にするためには当事者研修や交流会は必要不可欠なものである。

今後もグミの会として研修・交流会を開催し、また他団体の研修などの情報発信をしていく予定である。

